

やんさノエ

会報

2012 No.17



発行 江差追分会

2012.6.18

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://www.hakodate.or.jp/oiwake/>



江差追分 感謝の旅で熱唱する青坂上席師匠 (5/25 大阪市役所前)

追分会会員・ファンに感謝

江差追分会副会長 馬川 政紀

江差追分は、江戸時代に信州中山道の追分宿で唄われていた馬子唄が北前船によって江差に運ばれ、幾多の変遷を経ながら現在、全国、海外百五十九支部、三千六百人の会員で組織されている江差追分会によって保存・伝承されている。

この追分会が昭和三十八年に第一回江差追分全国大会を開催してから今年九月には半世紀五十回の記念大会を迎える。

江差町では、追分会や地元多くの団体による実行委員会を組織し、今年一年を「追分年」と定め、テーマを「感謝と創造」に決定、多くの記念事業を計画、実施している。(詳細は、総会開催のページ参照)すでに「ミニ・シンポジウム」や追分を運んできた北前船交易港を訪問し、北前船の関係者によって今日の江差追分が日本を代表する民謡のひとつとなっていることに感謝する「感謝の旅」を実施。第一陣の訪問地では、予想以上の歓迎を受けた。七月頃には第二陣の北前船交易港訪問を予定している。

江差追分は、北前船関係者に感謝するのは勿論であるが、第一回全国大会から今日までの大会や総会、セミナー、師匠会研修会などの追分会事業に全国から江差にお出でになる会員・ファンの力によって支えられてきたものである。会員・ファンの皆様には心から感謝を申し上げる次第です。

五十回記念大会は、「追分年」の中でも最大の事業であるが、今後の追分会の進むべき方向や全国大会の持ち方等の方向付けを見極めるための重要な大会でもある。

今年の記念大会も、例年どおり東日本大震災の地域を初め、全国の地区選抜大会を勝ち抜いた四百人(一般・熟年・少年)の選手が参加して各部門での熱い戦いが繰り広げられるであろう。

五十回記念大会の栄冠はこの支部の誰に輝くのか・・・出場選手の皆さんの熱唱・熱演に期待・・・

第五十回記念江差追分全国大会

「江差追分年」町挙げて

平成二十四年度江差追分会総会

（記念事業実行委員会を立ち上げ多彩に）

本年度の江差追分会総会が四月二十二日ホテルニューえさしで開催、総会に先立ち午後一時から同ホテルにおいて理事会で提案議案を協議の後、午後三時から総会に入り、新年度の事業計画と予算が決定された。

本年度は、江差追分全国大会第五十回を迎え、大会発足以来半世紀節目の年となることで、「江差追分年」と位置付け、町を挙げての活動展開を目標

に追分会の記念事業が盛り込まれた予算が決定された。

予算総額は二、五五八万五千円、前年度に対し、四四六万四千円の減となっているが、前年度は第五十回に向けて、歓迎看板や追分の歴史変遷を記録するDVD制作など事前対策の予算が織り込まれていたもので、前年度に措置されたものである。このように半世紀の事業は、前年度から着手され、すでに措置されたものもある。

第五十回全国大会は平成二十四年度一年間を「江差追分年」とし、すでに町議会、観光コンベンション協会、商工会、文化協会など町の主要な二十団体で、江差追分全国大会実行委員会を発足、活動に取り組むことが確認されている。

総会の冒頭、江差追分を大合唱



第五十回大会の主な記念行事

（追分会主催にかかわる）

全国大会日程（九月二十一、二十二、二十三日）三日間は変らないが、記念事業が盛り込まれるため、運営スケジュールが変更されている。新たに加わるものと特に変更されるものはおおよそ次のとおり。

第一日 九月二十一日（金）
アトラクションが予選第一日から取り入れる。

江差北中学校による尺八合奏、町民による追分宣言・追分大合唱、観光大使「金田たつえ」歌謡ショー。

第二日 九月二十二日（土）

昼食時に①全国各支部少年少女追分合唱、予選会終了後②全国支部長の追分合唱③全国にある追分節にかかわる民謡の唄い手を各地から招聘し競演。小諸馬子唄、信濃追分、越後追分、本荘追分、馬縹追分、初瀬追分、出雲追分などを予定。

第三日 九月二十三日（日）

①前回大会優勝者、少年・熟年・一般出演②第一代から第十五代まで歴代優勝者出演③追分歌詞募集優秀作品発表披露。

大会ほかの記念事業
九月十五日～十八日

文化会館小ホール過去の追分関連
テレビ放映映像の上映会。
九月二十日午後四時三十分

かもめ島浜田喜一師、小路豊太郎
翁顕彰碑前追分大合唱、午後五時
第五十回全国大会前夜祭・郷土芸能披露感謝交流会。

九月二十一日～二十三日
追分広場「えさしグルメまつり」（町内）

大会時間の変更となります

ご注意ください

今年度については、三日間の開始時間が次のとおり変更となりますのでご注意ください。

九月二十一日・二十二日（予選会）

いずれも、午前八時三十分から（昨年より三十分繰上）

九月二十三日（決選会）

午前八時から（昨年より一時間繰上）
※開会式については、少年、熟年決選会終了後開催。十四時頃からを予定。

（松村隆学芸部門理事）

江差追分感謝の旅 「北前船寄港地」訪問事業

昭和三十八年に発足した江差追分全国大会は今年で半世紀になる。「第五十回大会は、例年の大会ではなく、これからの江差追分のあり方を確立する年にしたい」、一年間を通してイベントを展開する「江差追分年」として実行委員会を立ち上げた。

実行委員会は町議会、商工会など町内の主な機関や団体で構成し、町を挙げて活動を展開する企画を進めてきた。



兵庫県豊岡市での江差追分披露

第50回記念江差追分全国大会実行委員会の企画

追分は、江戸時代日本海を往來した北前船が終着港の江差に伝え、北辺の風土と暮らしを唄い込んで出来あがった唄だといふ。北前船の寄港地を追分の唄の手が訪問し、いわゆる日本海時代の交流を進めることなど多彩なイベントが企画されている。

すでに、第一陣として五月二十三日～二十五日に、兵庫県淡路市、豊岡市、大阪市の三市を訪問し、たくさんの方々に感謝の江差追分を届けてきました。

実行委員会では、イベント、シンポジウム、大会運営、広報宣伝、宿泊部会、会場設営と六つの専門部会で実施体制を組む。各部会には町役場各課に事務局を配置して、当たらせることとし、主な事業は次のとおり。

◆イベント部会 ①北前船の寄港地追分訪問(兵庫県淡路市、豊岡市、大阪市、石川県珠洲市、秋田県秋田市、能代市などを予定) ②第五十回記念植樹「蝦夷地の山かいな」と追分歌詞のヒバ山の再生。③NHKテレビ

公開番組「それいけ！民謡うた祭り」

④追分五十年パネル展などほか。

◆シンポジウム部会 ①江差追分のこれからの志向する「江差追分の未来を」をテーマに町民、追分会員みんなで話し合う地元シンポジウム ②大シンポジウム・民謡の著名人、学識経験者などをパネラーにグローバルな視点から江差追分の未来について課題を説明する。③追分企画展・郷土資料館で九月三十日まで開催。

◆追分大会部会 ①江差追分テレビ放映映像の上映 ②観光大使「金田たつえ」歌謡ショー、町民追分宣言、江差北中追分尺八合奏など ③全国追

分節招聘競演。

◆広報宣伝部会 追分大会に関連する各種行事をマスコミ、雑誌、インターネットでPR ①江差追分出前キャンペーンで愛好者を拡大 ②イメージキャラクターの活用とグッズ作成 ③函館・東北チャリティープロモーションの参加など。

◆宿泊部会 大会期間の宿泊施設の不足を充足する対策 ①民泊の促進と受け入れ住宅の確保 ②町内集会施設などの利用対応 ③近隣町宿泊施設の連携確保など。

◆会場設営部会 追分広場「えさしグルメまつり」等の会場設営ほか。

江差追分「人生の唄」DVD制作

追分では、江差追分会館展示映像の更新に合わせ、今年度の第50回江差追分全国大会を記念して、江差追分の歴史を映像で後世に残すため、DVDを制作しました。



タイトルは、「江差追分 人生の唄」で、「オープニング」「江差追分とは」「まちの概要」「江差追分の源流を訪ねて」「追分節が伝えられたころのえさし」「追分の始祖佐之市」「正調江差追分と古調追分」「江戸から明治へ」「明治から大正へ」「江差追分会発足後の活動」「江差追分会現在の活動」「語る 江差追分にとりつかれた人たち」「江差追分全国大会～エンディング」の構成になっております。

1枚1,500円で販売しておりますので、購入希望の方は江差追分会事務局までお申し込みください。

第五十回江差追分全国大会記念シンポジウム

「みんなで考えよう 江差追分の未来を！」

風呂場追分、子供の遊び追分、ユニークな賞など提案

江差追分シンポジウムが四月二十一日、江差追分会館で開催された。追分全国大会発足以来、めざましい発展をたどってきたが、半世紀を経過して会員の高齢化や若年層の追分離れなど課題に直面している。半世紀の足跡から、江差追分がどうあるべきか、どういう方向をとるべきか、今後のあり方について探った。

追分会会員や町民一五〇人が参加、基調講演とパネルディスカッションで熱心な話し合いが交わされた。



基調講演



館 和夫
(江差追分会学芸部理事)
厚沢部町生まれ、江差高校を経て宇都宮大学卒業後、道立林業試験場に勤務。著書に「江差追分」「江差追分物語」などがある。

誰でも気軽に唄える
風呂場追分などを提唱したい

江差追分全国大会は発足以来めざましい発展を遂げ、江差を郷土芸能の町として位置付けるとともに、町民や愛好者の精神的支柱ともいえるべき役割を果たしてきました。

一方、発足後五十年を経た現在、大会が多分に定形化され、競演形式による企画のマンネリ化が進んでいるように思われます。競演会人気で支えられている追分は、現在はなほ裾野が薄弱になっています。

基本となる歌唱技術を守り、伝承していくことは勿論、古調に学び、さらに時代にマッチした歌詞や曲節を探索するなど、芸域を広げることが必要です。声を張った唄を唄えない人でも気軽に口ずさむことができる

人でも気軽に口ずさむことができる
焔端追分、台所追分、風呂場追分の復活を提唱したい。追分に江差らしい情緒をどう唄い込むか、昔の師匠は「魂の乗らない唄は駄目だ」と言っていました。庶民的なレベルの唄を盛んにすることによって、この唄を日々の暮らしに寄り添ったものにしていきたいと思えます。

パネルディスカッション

基調講演に続いて、次のメンバーによるパネルディスカッションが行われた。

■コーディネーター

室谷 元男 (歴まち商店街協同組合理事長)

■パネラー

近江 八声 (師匠会会長)

渡辺傳次郎 (関西地区運営協議会会長)

寺田 貴雄 (北海道教育大学准教授/日本音楽教育理事)

飯田 隆一 (江差商工会長)

小田島 玲 (北海道新聞江差支局長)



室谷 元男
(コーディネーター)
歴史を活かしたまちづくりを実践、まちづくりのアイデアを次々と実行している仕掛け人。

江差追分をより身近なものに

追分を唄えないのでわからないのですが、町民の中に追分が浸透していくとか、体に寄り添うような形になればいい、そんな雰囲気でも追分が流れる町になればと思っています。本場といっても追分を唄えない人も大勢いますから、第一点は自己紹介から追分はどう関わってきたか、まず原点に戻って、江差と追分をどう見てこられたか、入門から始めたいと思います。

次に、二回目の発言は、江差から見た追分と外から見る追分の違いについて、さらに何が魅力なのか、これからどういう方向を目指せばいいのか、お願いします

最後はそれぞれの立場からの考えを提案してもらいます。



近江 八声

難しく考えないで自由に唄えるように

父が初代師匠、母が三味線という家庭で育ったので物心ついたころから聞き覚えで追分を唄っていました。

第一回大会の昭和三十八年、二十三歳で優勝、四十八年には二代目を継いできましたが、全国大会も五十回を迎え、他の民謡とは比べられないほど成長してきました。追分は難しい

と言われますが、かじればかじるほど、スルメのようにいい味の出る唄です。数年前ブラジルの移民の老人が九十一歳で素晴らしい追分を唄って感動させました。難しいと言いますが、一節ずつ唄えるように合理的に出来ていますから、追分サークルを作って無料で開放し、自由に唄えるようにしたいと思います。



渡辺 傳次郎

江差追分を学校教育に取り入れるべき

二十回大会「NHK熱唱二五時間」を見て「これは」と感動し、江差を訪ね、近江先生から指導を受けることが出来ました。三十年も続けてこられたのは、大会やセミナーなどを通じて出来た多くの友人、師匠、そして家族のようにもてなしてくれる旅館などのお陰と感謝しております。「追分は人柄を聞くもの、一生が修行」この言葉を肝に銘じ、さらに人間を磨きたいと思っています。また、厳しい労働の中で頑張っている人達やこれからの日本を背負って立つ若い人達の心の支えに追分を広めたいと思っています。追分は国レベルの文化財にして、学校教育に取り入れるべきだと思います。



寺田 貴雄

追分を子供たちの遊びの唄に

一昨年、日本の音楽教育学会のゼミナールが札幌で行われた折、江差追分をテーマに追分会の師匠さん方に講師を引き受けてもらいました。音楽教育の視点から見ると、江差追分は文化的に価値の高い音楽です。北前船交易の生活を背景にしていること、全国大会を五十年も続けていることは、日本の民謡文化の中でも群を抜いたものです。唄の質の高さを維持し、それを支えるファンをどう増やしていくかが課題だと思います。野球も子供たちの三角ベースから高校生の甲子園、更には大人の草野球チームもあります。ファンの裾野を広げるためには、特に、子供たちの遊びに追分を取り入れるような遊びの唄、それに家庭を巻き込むことを提案したい。



飯田 隆一

これからも感謝の気持ちでもてなしたい

三十年ほど前、追分全国大会に全国の人々がやってくるようになった

が、地元商店として追分にどうかかわっていかと、若い仲間が話しあつて「笑い嘆き節大会」を始めました。大会にやってきても入賞者はほんの一部ですから、残念組の人たちに江差の三平汁と焼き魚でほろ酔い気分でもっと自由に唄ってもらう場所を提供しようということでした。全国からこれほど来てもらっているが、旅館も施設も不自由をかけている。江差に来てくれる方々に感謝の気持ちと地元産物でもてなしていきたい。嘆き節大会も中断していたが、五十回大会を機会に議会と町職員で復活したので続けていこうと思っている。



小田島 玲

追分に触れる機会が必要

北海道の代表民謡だと言われていますが、江差に赴任するまで聞いたことはなかった。北前船の歴史からできたということは面白いのですが、民謡ファン以外の一般の人には江差に來ないと聞けない。良さがわからない「知られざる民謡」。それでいいかどうか。音楽だから新聞記事など文字情報では良さは伝わらない、唄に触れさせる機会が必要で、札幌の狸小路あたりの街頭で唄えばうけ

るのではと思う。全国大会でいえば、もっと親しんでもらうため、例えば相撲の三賞のようにユニークな賞を設けるなど、素人が見て楽しめる工夫があったらどうか。

《フロアーから》

- 「追分を習い始めて一年余、よそに行くくと江差なら追分を唄えと言われる。江差の宝を身につけようとやっている」
- 「全国の人々を惹きつける追分を町民がもっと意識してほしい」
- 「追分の町だから五十回大会に向けて追分茶屋を開店する。宿が不足しているので民泊もやっている」



室谷コーディネーターより

いい提案がたくさんありました。全国大会のレベルが高くて話ができにくい、それに蓋をするのではなく、みんなで話し合いながら方向を決めることが大事です。みんな江差が好きで、追分が好きだということがあればいい方向が出ると思う。井戸端や店先で話し合えるようになればいい。これからもこういう機会を持つことが必要だと締めくくった。

企画展「江差追分～その伝承者たち～」



ロングランで開催されている企画展

追分の今後に夢や希望を伝えるコーナーも

旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）では、九月に行われる「第五十回記念江差追分全国大会」の記念事業の一環として、企画展「江差追分～その伝承者たち～」を開催している。

この企画展では、観光客など江差追分のことをあまりご存知でない方向けに、江差追分の起源や、明治時代における「正調」への動き、また、三味線・尺八・踊りや新地芸者の功績などについて紹介している。

「江差追分会館」で上映している、

リニューアルされた江差追分の紹介映像とあわせてご覧になると、江差追分の歴史と伝承について一層理解が深まると思われる。

また、展示室の一角には、「江差追分 これからの五十年」と題し、江差追分に関わる人々の、今後に向けての希望や夢を伝えるコーナーを設けている。ぜひ、みなさんの希望や夢をお寄せ下さい。

体験コーナーでは、塩ビ管の尺八を使った尺八の吹奏や、江差追分踊りの衣裳着用もできる。

◆会場 旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）江差町字中歌町一一二

◆会期 平成二十四年四月二十八日～九月三十日（会期中無休・九時～十七時）

◆入館料 大人三百円・小中高百円 江差町内の小中学生・七十歳以上は無料



企画展のポスター

格付審査基準を緩和

四級秀と三級で

師匠会総会で基準内規改正

現状における「格付審査基準」での進級は、特に高齢者の方々には困難な状況となってきました。江差追分を唄うことを楽しんでもらい、その励み（目標）や成果として、格付級や指導資格の取得の道が開かれるように、二月に開催された師匠会総会において基準内規の改正を行いました。

■改正内容

現行基準

四級秀「唄は切れずに唄い、本すくりができ、味わい、情緒などが感じられ、唄に流れを感じられる唄」

改正後「本すくりができ、味わい、情緒などが感じられ、唄に流れを感じられる唄で、やむを得ず切ったと感じられる場合であっても、昇級することもある」

現行基準

三級「唄基本は全て習得している者とし、各節に抑揚、深み、迫力、個性が感じられる唄」

改正後「唄基本は全て習得している者とし、各節に抑揚、深み、

迫力、個性が感じられる唄。やむを得ず切ったと感じられる場合であっても、昇級することもある」

以上のとおり、それぞれの基準をクリアした唄であれば、切った場合でも昇級することもありえるという緩和内容です。

一度は進級をあきらめていた方は、是非、再度挑戦してみてください。



師匠会総会の様子

音楽教育に江差追分が



昨年度優勝者、瀧本豊壽さんが深川市一已小学校の音楽授業で江差追分を披露 (H23.11.5)



旭川市音楽研究会講師として江差追分を指導する佐々木洋子師匠 (H23.12.14)

**江差追分は唄が主役
伴奏は従、伴奏者が唄を主導しない
道東地区運営協議会が
尺八伴奏者研修会を開催**



4月8日、帯広市において尺八伴奏者の技能向上を狙いとした研修会を開催した。21人が参加し、初心に立ち返って熱心に基本を再確認。講師を務めた釧路支部の後藤さんは「江差追分は唄手が主役、尺八伴奏者は縁の下の力持ち」を強調し、「先走ったり尺八の音色を強調してはいけない」などと心構えを指導した。

支部・地区運営協議会コーナー

第50回記念江差追分全国大会 関連事業スナップ

●唄い始め

第50回記念江差追分全国大会の成功を祈る「唄い始め」1/1



●議場コンサート

北海道議会議場コンサートで全国大会をPR (第40回優勝者 長江亜津子さん) 2/23

●いにしえ夢開道

地元優勝者による、民謡ショーで江差追分をはじめ追分関連の民謡を披露 5/5



●記念植樹

50回大会の成功を願い、ヒバ500本を植樹し、参加者全員で江差追分を大合唱した 5/13

事務局からのお知らせ

指導者資格認定者

今回新たに認定された方々です。

上席師匠

・石田 盛一(函館もりいち会支部)

正師匠

・田村 泰子(釧路支部)

・菊地 勲(菊声会支部)

・千葉 栄人(盛岡アカデミー支部)

師匠

・阿部 眞光(室蘭白鳥会支部)

・那須 勇(追分大好き会千歳支部)

準師匠

・鈴木 克典(仙台支部)

・斎藤与織子(札幌ライラック支部)

・鈴木 紘鳳(札幌山鼻支部)

・剣地 陽子(函館もりいち会支部)

講師

・大江 恒次(京都竹鷗会支部)

・成田 定光(札幌支部)

準講師

・鈴木 正祥(静岡県沼津支部)

・野村 勝繁(函館千曲会支部)

・越前 美廣(仙台支部)

・富樫美枝子(滝川支部)

新支部設置

四月の理事会で新支部一支部を承認しました。これで支部数は一五九支部となります。

・東京銀杏会支部

(支部長 後藤 國)

二十三名 関東地区

役員(理事)の交代

退任 佐々木基晴(函館地区)

新任 山内 藤一(函館地区)

※協議会役員の変更による

江差追分新歌詞募集締切り迫る

第五十回大会を記念して募集している江差追分の新歌詞の締切りが六月三十日までです。

まだ間に合います。前唄、本唄、後唄の三部構成で、一人一作品とします。ご応募ください。

■第五十回江差追分全国大会を記念して、NHK公開テレビ番組「それいけ！民謡うた祭り」の公開録画を行います。江差追分関係者も出演する予定です。是非ご覧ください。

●公開録画日 八月二十三日(木)

午後六時三十分

●場 所 江差町文化会館

※事前に入場整理券の申し込みが必要になります。六月末よりNHKにて応募開始予定。

★放送予定日 九月八日(土)

午後三時五十分～三時四十九分

NHK総合テレビ

今後の二十四年度事業計画(予定)

○第二回理事会

平成二十四年七月十四日

○第五十回記念江差追分全国大会

平成二十四年九月二十二日～二十三日

○江差追分会師匠会研修会

第一回

平成二十四年十一月十一日

第二回(総会も実施)

平成二十五年二月十七日

○平成二十四年度秋季江差追分セミナー

とき 平成二十四年

第一週 十一月一日～三日

第二週 十一月八日～十日

第三週 十一月十五日～十七日

○第二十八期江差追分セミナー

とき 平成二十五年

第一週 一月三十一日～二月二日

第二週 二月七日～九日

第三週 二月十四日～十六日

第四週 二月二十一日～二十三日

○資格認定審査会

平成二十五年三月十七日

○地方格付審査会

とき 平成二十四年十二月九日

ところ 札幌市

江差町公式キャラクター

「しげっち」グッズを販売しています

ストラップ	400円
ピンバッジ	400円
絵馬	500円
3Dキーホルダー	500円



●販売先～江差追分会館
= お土産に是非いかがですか =
☎ TEL (0139) 52-5555



●観光客を迎えるための準備も着々
江差町キャラクター「しげっち」モニュメント、歓迎看板

各支部・地区運営協議会からの情報をお待ちしております。

【編集】 岩淵啓介・松村 隆

館 和夫・高田 裕

【企画】 江差追分会事務局